

# めかご ヨーカゾーの目籠飾り

## 1. 大和のヨーカゾー

12月8日と2月8日はヨーカゾー（八日僧）といって、大和市域ではこの日に妖怪の一つ目小僧が訪れるといわれていました。

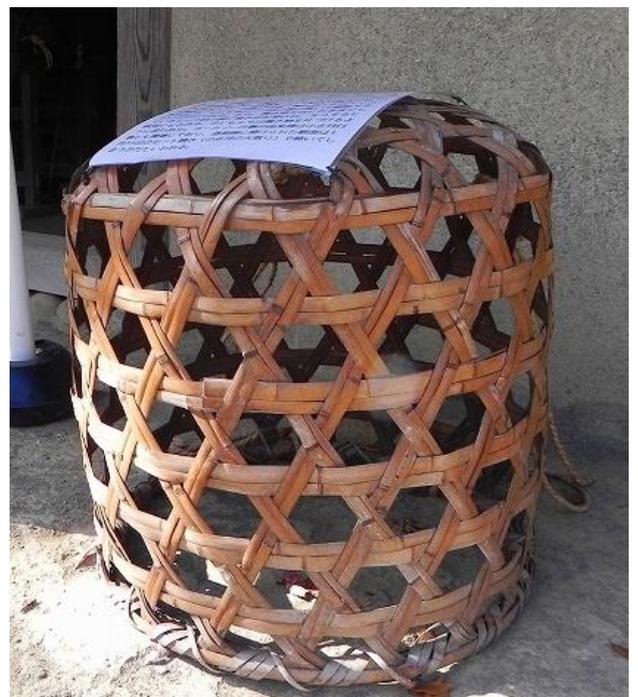
一つ目小僧はその名の通り目が1つしかないため、目がたくさんある物を見ると驚いて逃げていくと信じられていました。そこで人々は一つ目小僧を追い払うために、家の入口に目籠やザルなどを飾るようになりました。

また、外に履物が出ていると、一つ目小僧が災いをもたらす家の印として、焼印を押していくといわれていました。あるいは、焼印を押されると病気になるといわれていました。そのため、外に出ていた履物は片付けさせられたそうです。

2月8日には、ヨーカゾー以外に「針供養<sup>はりくよう</sup>」と呼ばれる行事を行っていた地域もありました。大和市内では下鶴間や深見に、裁縫で折れた針を豆腐に刺して<sup>まつ</sup>祀る風習がありました。



↑軒先に立てられた目籠



↑目籠

## 2. ことようか 事八日

12月8日と2月8日は「事八日」と呼ばれ、日本各地に様々な伝承が残されています。

関東甲信越の各所では一つ目小僧が訪れると言い伝えられている地域が多く、神奈川県・千葉県・東京都などの一部では事八日の日を「ヨーカゾー（八日僧）」と呼びます。しかし神奈川県内でも、逗子市や平塚市などでは、この日は単に「一つ目小僧」と呼ばれています。

また、事八日には妖怪ではなく、神様が訪れるためお供え物をするという地域もあります。例えば茨城県や栃木県の一部地域ではこの日を「ササガミサマ」と呼び、よそに稼ぎに出た神様を送迎する日だと伝えられています。ササガミサマでは、笹を3本束ねたものを庭に立て、小豆飯などを供えます。

## 3. ヨーカゾーとセート焼き

ヨーカゾーにやって来る一つ目小僧の伝承は、地域によってはセート焼き（どんど焼き）と結び付けられることもあります。

12月8日にやって来た一つ目小僧は、厄を落とす家を帳面につけ、その帳面をどうそじん道祖神に預けて次の年の2月8日に取りに来るといわれています。その帳面を燃やしてどの家に厄を落とすのかを分からなくするのが、1月14日に行われるセート焼きであると、大和市内では下鶴間、深見、福田や、上和田の一部で伝えられていました。